

近くに薬局 安心・便利

国の指定を受けて県が進めている「かがわ医療福祉総合特区」の取り組みとして25日、さぬき市多和地区に「へき地薬局」がオープンした。県薬剤師会と徳島文理大香川薬学部有志が新設したNPO法人「へき地とあゆむ薬剤師」(安西英明理事長)のメンバー約20人が交代で従事し、これまで薬局のなかった同地区で、より便利で安全・安心な投薬環境を構築する。



「へき地薬局」の施設整備されたさぬき市多和地区

さぬき・多和にオープン 県特区事業、地域の拠点に

同特区での薬局開設は初めて。薬局は旧長尾保育所分園助光保育所の跡地利用の一環で、市が診療所出張所を移転・整備したのに合わせ、NPO法人が同一建物内に開設した。

同地区ではこれまで、診療所での院内処方大部分を頼っていたが、薬局の開設で院内処方より豊富な種類を投薬できるほか、薬剤師による専門性の高い服薬指導なども行えるようになる。また、ジェネリック医薬品(後発薬)の利用促進や一般医薬品(大衆薬)の販売も可能となり、医療費の削減や住民の利便性向上にもつながるといふ。

同特区は、県が昨年9月に国へ申請、同12月に指定された。遠隔医療システムを活用した県全域の医療水準の向上や島しょ部、へき地などでの医療の確保などが大きな柱で、へき地薬局開設に不可欠な薬局管理者の従事制限などの規制緩和策が盛り込まれている。

地域医療充実へ 寄付講座を設置

香川大と高松市が協定 過疎化や高齢化が進む地域の医療体制の充実に向けて、高松市と香川大(長尾省吾学長)は25日、同大医学部に寄付講座「地域包括医療学講座」を設置する協定を結んだ。幅広い診療能力を持つ専門医の育成と確保が目的。

同講座では、同学部の研修医らが、市民病院塩江分院(塩江町)と付属香川診療所(香川町)の2カ所を対象に、診療や研究を実施する。設置期間は2013

この日、市診療所、出張所と合同開所式があり、大山市長は「地域の生活の質を上げていく第一歩。必要な機能を凝縮したこの施設が地域の拠点となることを期待する」と述べた。

薬局は診療所の診察日に合わせ、毎週火、木曜の2日間営業する。

協定書に調印し握手する大西市長(左から3人目)と長尾学長(同4人目) 高松市役所



年1月から16年3月末まで、寄付総額は1億5千万

記者ノート

歴史は繰り返すものなのだろうか。衆院選の年の県内10大ニュースを見ると、2009年は新型インフルエンザがまん延、05年は腸管出血性大腸菌O157の集団感染で死者が発生。03年は新型肺炎(SARS)による風評被害が拡大と、病疫絡みの項目がランクインしていた。

この日、市役所で調印式があり、大西市長や長尾学長らが出席、協定書に署名した。大西市長は「全国的な医師不足で医師の確保が困難な状況。地域医療の充実に向け、全面的に協力していただきありがたい」とあいさつ。長尾学長は「大学は地域貢献を重視しており、今後も継続してやっていきたい」と述べた。